

日本人医師診察開始

【エルジシユ―三好範英】日本の国際医療NGO（民間活動団体）「AMDA（アムダ）」の湊崎祐一医師（67）（内科）と大類隼人医師（30）（外科）が26日、エルジシユの救急病院で診療を開始した。

最初の患者は、地震の際に落下した建物の破片で耳を負傷した女兒のメリヤム・チャンちゃん（6）。大類医師が耳の壊死した部分を治療し、止血した。父のイスマイルさん（39）は「経験のある日本の医師の治療を信頼している。日本の支援に感謝したい」と語った。

両医師によると、緊急治

療の段階は終わりつつあり、今後は負傷者の再来治療とインフルエンザなど感染症への対処に重点が移る見通し。